

「2025 フライングディスク交流大会」 競技規則

1. 競技規則

本大会は開催年度の(公財)日本パラスポーツ協会制定「全国障害者スポーツ大会競技規則」並びに本大会「競技規則」に基づいて行う。

2. 参加資格 定員:30 名程度

つぎの(1)～(2)の両方を満たす方

(1) 小学校 5 年生以上の方

(2) 島根県内に在住または通勤・通学する方であって、障がい(身体・知的・精神)^(注1)のある方

(注1)

- ① 身体障がい者は、身体障害者福祉法(昭和24年法律第283号)第15条の規定により、身体障害者手帳の交付を受けた者。あるいは、その取得の対象に準ずる障がいのある者。
- ② 知的障がい者は、厚生事務次官通知(昭和48年9月27日厚生省発児第156条)による療育手帳の交付を受けた者。あるいは、その取得の対象に準ずる障がいのある者。
- ③ 精神障がい者は、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(昭和25年法律第123号)第45条により、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた者。あるいは、その取得の対象に準ずる障がいのある者。

3. 参加区分

以下の2種目、もしくはどちらか1種目に出場することができる。

(1) アキュラシー … 障がい、男女、年齢の区分を問わない。

※ディスリート5・ディスリート7のいずれかを選択する。

(2) ディスタンス … 男女別とする。

※立位・座位のいずれかを選択する。

4. 服 装

運動に適した服装とする。

5. 競技方法

【アキュラシー】

(1) 競技場

- ① サイト(競技を行う場所)の設置は追い風を原則とする。
- ② アキュラシーゴールと隣のゴールとの間隔は5m以上とする。
- ③ 競技場には吹き流しを設置する。

(2) 用 具

① ディスク

競技用ディスクは、日本フライングディスク協会公認および推奨品(含む日本障害者フライングディスク連盟公認)の「ファストバックモデル」ディスクで、直径23.5cm、重量100±5gとする。

② アキュラシーゴール(標的)

- a. 材 質:鋼鉄製で円形部はオレンジ色焼付塗装仕上とする。
- b. 形 状:内径91.5cmの円形とする。パイプの径は2.5cmとする。
- c. 位 置:アキュラシーゴールの前面がスローイングラインと平行で外形の最下部が61cmになるように設置する[図1参照]。

③ スローイングライン(足留材)

- a. 材質:プラスチック製または木製とする。
- b. 色:白色
- c. 形状:長さ160cm、幅6cm、高さ4cmとする。



島根県観光キャラクター
「しまねっこ」

- d. 止め方:競技場に完全に固定する。
- e. スローイングアシストライン(視覚障がい者用補助具):スローイング方向がわかるように、スローイングライン中央からアキュラシーゴール方向に直角に直径 1.5 cm、長さ 50 cmの丸棒を設置する。[図 2 参照]

④ 座位の部で使用する椅子は主催者側で用意する。

(3) 競 技

① 種 目

- a. ディスリート・ファイブ:スローイングラインの中央よりアキュラシーゴールまでの距離を 5m とする。
- b. ディスリート・セブン:スローイングラインの中央よりアキュラシーゴールまでの距離を 7m とする。

② 競技方法

- a. 試技は 10 投連続で行う。
- b. 投げ方は自由とする。
- c. 競技上有利となる用具の使用は認めない。
- d. プレーヤーが視覚障がい者の場合は、競技役員がアキュラシーゴール後方 3mの距離から電子音によってアキュラシーゴール中心部の位置を知らせることができる。
- e. 試技の時間は、プレーヤーが 1 投目のディスクを受け取ってから 5 分とする。5 分を超えた試技は無効とする。

③ 得 点

得点は、ディスクが地面に触れずに直接アキュラシーゴールを通過した回数とする。逆方向から通過した場合は得点とならない。

④ 順位の決定

- a. 順位は、得点の多さで決定する。
- b. 同点の場合は、第 1 得点を先に挙げた者を上位とする。第 1 得点と同じ場合は、順次、得点を先に挙げた者を上位とする。
- c. bの方法によって 1 位、2 位、3 位が決定しない場合は、1 セット(3 投)の再投(追加試技)を行い、得点の多さで順位を決定する。ただし、4 位以下の者で同点の場合は、再投は行わず、同順位とする。
- d. cの方法によって再投を行った結果、同点となり 1 位、2 位、3 位が決定しない場合は、bの方法によって順位を決定する。
- e. 再投は、順位が決定するまで最大 5 セットまで行う。
- f. eの方法によっても順位が決定しない場合は同順位とする。

⑤ 反 則

試技中に身体の一部や補装具(椅子等を含む)がスローイングラインのプレーヤー側の側面以外に触れたときは反則とする。ただし、フットレストがスローイングラインの上方空間に出ることは反則としない。反則のあった試技は 1 投とみなすが、得点は無効とする。

【ディスタンス】

(1)競技場

- ① サイトの設置は追い風を原則とする。
- ② 1 サイトは横 20m以上、縦 6m以上とする。
- ③ スローイングエリアは、スローイングラインとスローイングエンドラインの幅 1.8mとする。[図 3 参照]
- ④ 競技場には吹き流しを設置する。

(2)用 具

競技用ディスクおよびスローイングラインは、アキュラシーと同様のものを使用する。

(3)競 技

① 競技方法

- a. プレーヤーはスローイングエリア内で試技をしなければならない。
- b. プレーヤーは試技の前に1投の練習をしなければならない。練習用ディスクは競技用と同規格のもので、色は黄色とする。
- c. 試技は3投連続して行う。
- d. 投げられたディスクの有効範囲は、競技フィールド前方180°とする。
- e. 距離の計測は、スローイングラインの中央の計測点から、ディスクが最初に地面に触れた点までとする。[図4]
- f. 投げ方は自由とする。
- g. 競技上有利となる用具の使用は認めない。
- h. 試技の時間は、プレーヤーが1投目のディスクを受け取ってから3分とする。3分を超えた試技は無効とする。
- i. 座位で競技する場合のシートの高さはクッションを含め75 cm以下とする。

② 記 録

- a. 記録は、3投の試技で最も距離の遠い着地点を計測する。
- b. 計測はcm単位とし、1 cm未満は切り捨てる。

③ 順位の決定

同順位の場合、1位、2位、3位は1投の再投(追加試技)により決定する。再投は順位が決定するまで行う。4位以下の者が同記録の場合は、再投は行わず同順位とする。再投の記録は公式記録としない。

④ 反 則

- a. スローイングエリア外から助走をしたときは反則とする。
- b. その他のスローイングに関する反則は、アキュラシーと同様に扱うものとする。



島根県観光キャラクター
「しまねっこ」